

第1 事業の概要

令和7年度は、一般財団法人としての13年目であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員16名については、各自の研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、各地(東京、水戸、岐阜、松山、佐賀)において地域の特性に応じた研究会を行った。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、「日本学講座」として「日本の発展に尽くした人々」及び「歴史上の重要な事案」をテーマに、下記の通り実施した。

日時	発表者	演題	備考
第18回 R7.6.14(土) 14:00~16:00	(一社)皇統を守る会 会長 葛城 奈海	英霊が守ろうとした国柄とは	靖国会館 参加者86人
第19回 R7.9.20(土) 14:00~16:00	文芸批評家・都留文科 大学名誉教授 新保 裕司	義憤と啖呵 ～「美の日本」から「義の日本」に 転換させるために～	靖国会館 参加者72人

また岐阜市に於いて第4回目となる日本学講座を令和8年3月22日(日)
(10:00~11:30)「壬申の乱と美濃」と題して(講師 氣比神宮 朝倉正樹)開催した。

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：15編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：37編	『日本』発表論文

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

令和7年度は、日本学協会定例講演会(第20回)を令和8年2月7日(土)、靖国会館において「日本外交の劣化と再生に向けた課題」(講師 前駐オーストラリア大使 山上 信吾)と題して開催した。

また、関西講演会(第23回)9月20日(日)、大阪国民会館において「大阪・関西万博と日本経済の活性化」と題して(講師 関西大学・大阪府立大学名誉教授 宮本勝浩)開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、研究報告や相互討論等を行っているが、第20回目となる令和7年度は、令和7年11月9日(日)、京都産業大学むすびわざキャンパス(オンライン併用)にて、「御撰・御製をめぐる諸問題」を主題に開催した。古代、中世、近世のそれぞれの時代を取り上げ、3名による研究報告(京都産業大学名誉教授 所功氏「宇多天皇の御記と御遺誠」、京都産業大学教授 小林一彦氏「後鳥羽上皇一手塩にかけた『新古今和歌集』」、京都産業大学教授 盛田帝子氏「近世中後期の御所伝受をめぐる」)が行われた。その後、久禮旦雄氏(京都産業大学教授)を司会に登壇者を交えて相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第75巻第1号に掲載した。)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために実施しているが、令和7年度は「日本と日本人を考える」をテーマに令和7年8月23日(土)～24日(日)の2日間にわたり、神戸市の湊川神社を会場に開催した。

(参加者63名)

なお班長研修会を東京事務所で10回(参加者:延べ95名)実施した。

(4) 開催結果

定例講演会	参加者:212名
藝林会学術研究大会	参加者:50名 (会場43名、オンライン7名)

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会の開催は、ホームページを始め月刊誌『日本』及びチラシ等により、広報を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、広義の日本文化について、多角的に真摯で自由な研究を行い、その成果を国内外へ発信することを通じて、学術の向上に貢献することを目的とする藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。令和7年度は、第74巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。令和7年度は第75巻第4号～第76巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『桃李』・『日本』巻頭言集』の刊行準備を実施した。

ウ、『寒林夜話』を刊行した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	180頁	250部	年2回刊行
日 本	50～58頁	600部	年12回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、主としてホームページで実施した。